

鳥取県堆肥センター協議会の活動について

社団法人鳥取県畜産推進機構支援業務部主任
佐藤 功憲

はじめに

「青く澄み渡る日本海、緑豊かな山々。」鳥取県は豊かな自然に囲まれています。

本県は、日本列島本島の西端に位置する中国地方の北東部に位置し、東西約120km、南北約20?50kmと、東西にやや細長い県です。

北は日本海に面し、鳥取砂丘をはじめとする白砂青松の海岸線が続き、南には、中国地方の最高峰・大山をはじめ、中国山地の山々が連なっています。

山地の多い地形ながら、三つの河川の流域には、平野が形成され都市として発達しています。

気候は比較的で温暖で、春から秋は好天が多く、冬には降雪もあるなど、四季の移り変わりは鮮やかです。

本県の農業は、米、野菜、果実、畜産がバランスよく営まれ、農業県として、新鮮で良質な農産物を各地へ供給しています。

特に、本県特産の二十世紀梨は、先人たちの努力により、日本一の産地が形成され、海外にも広く輸出されています。

また、海岸線に広がる砂丘地帯では、ラッキョウ、長イモ、白ネギなどが栽培され、大山山麓の肥沃な黒ぼく地帯では、スイカをはじめ、ブロッコリーなどの野菜が栽培されるなど、地域の特性を生かした農業が行われています。

林業では、古くからの林業地域を中心に、県土の70%を占める森林で良質なスギが産出され、高級な建材や家具の材料に利用されています。

鳥取和牛は、江戸時代からたゆまぬ改良が続けられてきた風味が自慢の贅沢な逸品の一つです。

平成19年には全国和牛能力共進会鳥取県大会が開催されます。

平成15年の畜産粗生産額は、21,770百万円となっています。畜産種別では、肉用牛2,950百万円、乳用牛6,150百万円、豚5,090百万円、鶏7,550百万円、その他30百万円となっています。

平成15年の畜種別農家戸数は、肉用牛730戸、乳用牛280戸、豚60戸、ブロイラー68戸、採卵鶏30戸となっています。

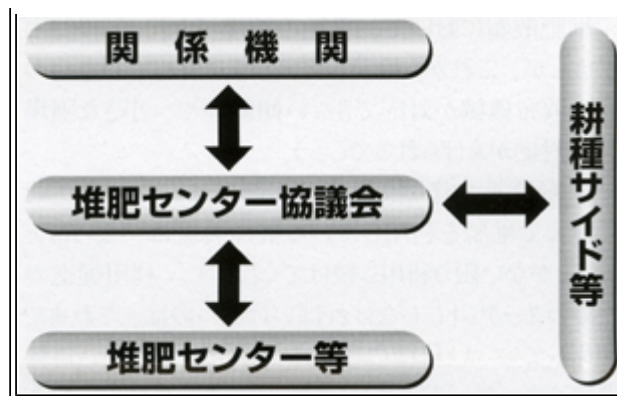
畜種別飼養頭羽数は、肉用牛22,600頭、乳用牛11,200頭、豚73,700頭、ブロイラー3,048千羽、採卵鶏674千羽となっています。

1 県協議会の体制

鳥取県堆肥センター協議会は、畜産と耕種の連携の下で家畜排せつ物による良質たい肥の生産及び利用の促進を図り、堆肥センターの機能強化と地力の維持増進並びに農畜産業の安定を目的として、平成14年に県内の堆肥センター、共同利用施設、大規模畜産農家など並びに本協議会の目的に賛同する団体での設立が、活動が始まりました。

県協議会の体制フローは以下のとおり。





2 協議会の活動内容は以下のとおりです。

(1) 情報の収集・提供に関すること

堆肥センターのアンケート調査を行ったり、家畜は排せつ物の適正処理、堆肥化技術、利用促進のための情報を提供しています。

(2) たい肥の利用情報等に関すること

(3) 良質たい肥生産技術等の研修に関すること

良質な堆肥を生産するために、土づくり研修会を開催または、堆肥共励会に参加をおこなっています。

(4) たい肥生産コスト低減に関すること

(5) たい肥センター等に対する指導・助言

(6) その他目的を達成するためのに必要な事業

おわりに

協議会の活動としてもっと活発さ必要かなと思う日々です。

堆肥センターは、畜産の農家のふん尿処理施設費の負担軽減、処理作業を軽減に一役かっています。また、耕畜連携による環境保全型農業推進の中心になる施設でもあります。

今後は、県関係機関、市町村、JAと連携し、良質堆肥の利用促進を図って行きたいと思います。

堆肥センターを訪ねて

本協議会の構成員の流通販売でがんばっている一つを紹介したいと思います。



「東伯町農業協同組合堆肥センター」

1 地域の概要

鳥取県のほぼ中央に位置する、県内有数の農業地帯である東伯町(現在は、市町村合併で「琴浦町」)は、稲作、野菜、果樹、畜産と多様な経営形態をとっています。

それぞれが単一経営として専門化している点が大きな特徴です。

畜産は単一経営または畜産を主とする準単一複合経営が多く、堆肥と粗飼料の生産を通じて、畜産と耕種農業の有機的な結びの的もあり、地域複合農業が形成されています。

2 経営の概要

昭和59年に農業機械総合センターを設立し、これが平成3年に「農業ヘルパーセンター」と「みどり有機工場」の2部門に分割され、6年には農協の機構改革に伴い、農業サービス部門の拡充強化を図るため「ファームサービス部」として昇格独立した。(現在は、みどり有機課)この事業部の基本方針は、以下のとおりです。

- (1) 町農業の特長である畜産の振興と、地域資源(畜産糞尿)の循環、活用を図るための堆肥製造や稲わら回収作業の実施
- (2) 堆肥散布とその供給、深耕による土づくり作業の受託と実施
- (3) 水稻、野菜および花の共同育苗による優良苗、優良品種の供給
- (4) 水稻作業の受委託の幹旋・仲介(耕起、田植え、コンバイン収穫、カントリーエレベーターへの搬入)と受託

特長

糞尿処理の特長としては、以下のとおりです。

- ・ 大規模な農協畜産団地の糞尿を処理
- ・ 牛、豚、鶏の糞尿を一定割合混合
- ・ 耕種農家のニーズにあった体制生産
- ・ 脱臭装置などを設置した臭気対策



堆肥の利用推進については、(1)地域を巻き込んだ利用促進、(2)堆肥の需給バランス、(3)利用者のニーズに対応を基本として進められています。

そのなかでも大きな特徴の一つには、「助っ人組合」の存在です。

「助っ人組合」は、地域農業の担い手としての認定農業者や機械利用集団を町全体で組織化することを目的にしています。

活動内容は、堆肥散布、耕耘、代かき、田植え、収穫(コンバイン)、防除、機械移植(白ネギ、ブロッコリー)、土壌改良、稲わら回収となっています。

今後も「助っ人組合」と相互の連携などの強化で良質堆肥を利用した土づくりが進められていきます。

助っ人組合の活動体制

